

乳児クラスの保育より(5)

雨の日のおでかけ

田辺 敦子

雨降りが続く梅雨の時期、毎年子どもたちの遊びには「雨」に関連した再現遊びが多く見られる様になります。雨の少なかった今年の梅雨時にも、やはり多様な雨降りの遊びが展開されました。子どもにとっても、雨がいかに身近な自然事象であるのか改めて気付かされましたが、それと同時に、子ども自身の身近に起こる出来事や実体験が、即遊びに反映されていくことの面白さも実感しました。子どもの遊びと生活とは密接な関わりを持っていくものですが、それは、既に乳児期の段階から始まっており、両者はフーガのように追いかけ合い、交差しながら互いに刺激し合っているのだと再認識することができます。優雅に膨らんでいくフーガの主題がシンプルな旋律であるのと同様に、乳児の遊びもまた、

テーマ自体はごく身近な素材であるために、遊びと生活とを行ったり来たりしながら、柔軟に遊びを展開していくことができるでしょう。

さて、今年の一歳児クラスでは、「雨降りの遊びといえは『雨の日のおでかけっこ』！」というほど、この遊びが人気を博しました。一口に『雨の日のおでかけ』と言っても、その状況設定は毎回微妙に異なり、その時々によって遊びの内容に違いが出てくるので新鮮です。例えば「雨が降っている」「雨が降りそう」または「雨上がり」という状況を考えるだけでも、見立てた道具の使い方にも違いが出てきます。経験したことが体系化できていない部分については、様子を見て、大人が意識して具体的な言葉掛けや問い掛けをし、子どもの遊びに拡がりが出るよう配慮することもあります。それらのヒントを得た子どもたちは、こちらの予想を越えたひらめきを持って遊びを発展させていきます。

雨が降っている、または雨が降りそうだ、という設定で始まるこの遊びには、子どもたちが日頃身につける傘や長靴、レインコートなどの『雨の日グッズ』が見立てられていきます。遊びのテーマだけにとどまらず、見立てて使う遊具も、素朴な素材を使ったシンプルなものになっています。そのため、ちよつとした工夫によって、それらを子どもたち自身の手で身につけることができ、遊びを中断させずに進めていくことができます。例えば、最も簡単な見立て傘は、布一枚を頭にかぶせるだけで完成です。これなら、遊びの途中で傘が必要になった時にも、傘作りに時間を割くことなく、さつと傘をさすことができます。瞬間的に「私もやりたい！」という気持になりやすいこの時期だけに、瞬時の思い

に即応できることは、子どもの欲求を満たすと同時に、その遊びを発展させていくための大切な鍵になってくるのです。また例の布で見立てたシンブル傘について付け加えると、突然の大雨に即対応できるだけでなく、雨が止んだ時にもすぐその

傘（布）をたためるという利点があります。たたんだ傘をまた使うかもしれないという見通しを持つてなのか、多くの子どもたちは、その傘を手持ちのバッグに携帯して遊びを続けているので、なんともほほえましいです。ちなみに、バッグは子どもたちの中で、おでかけ時のシンボルになっているようです。

さて、乳児期の子どもたちにとって、見立て遊具は欠かすことのできない大切な存在です。そこで私たち保育者は、よりシンブルで組合せが自由自在の遊具を揃えるように配慮しています。子どもたちの成長段階に応じて出し入れしていく遊具がある一方で、布・お手玉・ビーズリングなどの見立てやすい遊具に関しては、年間を通じて常時遊具棚に配置するようにしています。そのためか、子どもたちにとっても、それらの遊具が体の一部ならぬ遊びの一部となっており、遊びが変化していく中でも、それらを巧みに使いこなして見立てています。クラスの誰もが玩具作家といつて良いほど次から次に見立てが連鎖していき、大人も子どもも想像力に磨きがかかる毎日です。更に、仲間が手に持っている遊具は非常に魅力的に見えるようで、お互いの遊具を欲しがったり模倣したりすることもしば



しばですが、その時々流行があるのも興味深いところです。

また、遊びの内容を見ても、子どもたちの再現力が光っていて、雨の日に傘をさしたり長靴を履いて歩いたりした経験が、細やかな仕草や身振りを加えながらそのまま遊びに反映されていきました。例えば、Mちゃんはどこかで傘をたたむ場面を見たのでしょうか、遊びの中でバスに乗る際も、傘をたたんで自分の傍に置いていました。またKちゃんは、抱いていたくまぬいぐるみにも傘をさし、布で身体をくるんであげていました。Kちゃんは、お母さんが自分にレインコートを着せてくれたことを思い出していたのかもしれない。

更に、それまで単調な遊びを満喫していた子も、大人や仲間のモデルを目にし、自らも模倣していくことで、細やかな部分も意識化されていくようです。仲間と刺激し合いながら遊びと生活とを行き来している子どもたちは、その世界をぐんぐんと拡げつつあります。

今は夏、子どもたちの遊びは、園での水遊びや家庭での入浴・プール遊びなどをヒントに、また新たな再現遊びを展開しています。暑い毎日ですが、水（湯）の心地よさを知り、『雨の日のおでかけ』とはまた違った角度から自然物とのふれあいの様子を遊びの中で見せている子どもは、夏の暑さにも負けないほど活気に満ちています。

(かしのき保育園)